

学校法人原学園 専門学校青山ファッションカレッジ 学校関係者評価委員会 自己点検・自己評価 評価表

【令和8年5月31日実施】

令和7年度自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31 日)による

自己点検・評価項目	自己評価	自己点検・評価項目 総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
	優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
基準1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント					
小項目1-1 教育理念、目的及び目標の設定等			講師や職員間での理念の浸透は今後も図っていく一方で、学科においては今後目指すべき人材像を改めて設定し、それに向けて改めてカリキュラムの見直しや今の社会に求められる人物像の不断的に見直しを図っていく。	3・2・1	教育理念が明確に実践されている。
1-1-1 教育理念等を踏まえ、当該専門学校として、目的及び目標を設定し、学科ごとに育成する人材像を明確にしていること。	2	本校は「ファッション専門教育と人間教育を通じ、多くの有能な人材をファッション業界に送り出すことで社会に貢献する」ことを教育理念とし、教育活動を行っている。 ファッション総合学校として学校全体の教育理念は明確に示されている。また、教育課程編成委員会を組織し、外部の有識者からのアドバイスをカリキュラム編成に活かしている。			
小項目1-2 職業教育のマネジメント体制の整備			教務部と講師が連携し、学生に対しより良いカリキュラムを提供しようとする機会が多く、その場は今後も継続して実施していきたい。	3・2・1	現場と運営の協力体制が確立されている。
1-2-1 職業教育を推進(教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上等)するために必要なマネジメント体制を整備し、有効に機能していること。	3	組織編成上、職業教育を推進するにあたり、主たる役割を担っているのは教務部である。 カリキュラム編成にあたり、教務部スタッフとマネジメントスタッフが会議等を通じてカリキュラムを構築している。 また、適宜振り返りを行い、次年度に向けて改善すべきことを話し合い、次年度に活かしている。			
基準2 教育課程、教育の実施、学修成果					
小項目2-1 教育課程の編成と授業科目			少人数教育及び立地を活かした産学連携教育という長所をより伸ばし、卒業後に即戦力として活躍できる人材を育成するためのカリキュラム編成に注力する。学科・学年の積み上げを明確にし、より細分化した目標を設定していく。	3・2・1	留学生の対応として、日本語の習得が必須であると思う。
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	3	各学科において、目指す職業イメージは共有できている。 教育課程編成に置いては、年2回の教育課程編成委員会の実施により、業界の意見をカリキュラムに反映するフローが構築できている。 各学科において教育指導要領やシラバスに学修内容と評価方法を明示し、学生が学修の見通しを持って取り組めるよう配慮している。			
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【職業実践専門課程】	3	教育課程の妥当性を確保するため、教育課程編成委員会を設置し、業界関係者や外部有識者の意見を取り入れている。委員会は年2回以上開催され、教育目標や授業内容について多角的な検討が行われている。 委員会で得られた提言や意見は、教務会議等を通じて学内で共有され、教育課程や授業改善に反映されている。			
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を10単位以上開設していること。 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	2	外国人留学生が日本国内で就職し、円滑に職業生活を送るために必要な日本社会理解を促進する授業を通常授業の中に組み込んで実施している。 日本語による実務・接客、社会制度、労働慣行、就職活動等を学ぶ内容を通じ、キャリア形成を支援している。 一方で、留学生の日本語能力や経験に差があるため、今後も内容の工夫と支援体制の充実が必要である。			

小項目2-2 教育課程の実施				3・2・1	少人数教育という利点を生かし、生徒の好きなもの、興味のあるものを大切にし、寄り添った指導をしていただいていることを強く感じる。 教員の方がファッション業界で活躍している方なので、最新のデータ、アドバイスを教えてもらえる。 企業連携のプログラムが素晴らしいと感じた。
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	3	各学科において、適切な授業形態を基に授業を実施している。 シラバスに関しても、教科ごとに作成をし、学生に周知している。 学習の相談に関しては担任含め、相談に乗る体制を整えている。 成績評価に関してもシラバスに配点を記載し、公正に評価する体制をとっている。 成績の開示については問い合わせがあった際に点数を開示できるように整えている。	学生の興味関心の高い授業内容を構築していくとともに、より毎年シラバス内容を見直し、業界の変化に合わせた内容にしていく。 評価時期に関しては、今後試験実施期間を設け、一定程度の評価時期の統一を図るとともに、より具体的な評価基準を設けていく。		
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【職業実践専門課程】	3	職業実践専門課程認定学科においては、企業と連携した実技や演習の授業を毎年実施している。 具体的には企業から講師を派遣し、その講師が授業を進める形で行っている。 そのため到達目標や成績評価に関しては講師と内容を確認し、協力体制を敷いて行っている。	業界・現場と直結した実習経験を通じ、即戦力育成につなげている。	3・2・1	
小項目2-3 単位・卒業認定				3・2・1	目標と評価基準を明確に示しているので、やる気のある学生はそれ以上を目指すことができる。
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	3	学科ごとに卒業認定方針を明確に定め、方針に基づいた単位認定および卒業認定を行っている。成績評価は公平性・妥当性を重視し、複数教員による確認体制を整えている。 卒業判定は進級・卒業判定会議を通じて行われ、教育目標到達状況が適切に確認されている。	卒業時到達目標と評価基準を明示し、学生に周知している。		
小項目2-4 学修成果目標の達成状況				3・2・1	定期的に目指す将来像を書き出すことによって、自分の中でも整理がつく。それに対するアドバイスも色濃くなって社会に出るための準備となる。
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力（資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。）の学生の修得状況を把握し、評価していること。	3	取得単位数及び出席率を基に卒業認定を年度当初に周知している。 修得すべき能力に関してはカリキュラム上設定を行い、それに沿って科目配置を実施している。 毎年卒業進級判定会議を実施し、成績評価、出席状況を勘案したうえで卒業、進級の判定を行っている。	単位認定に際してはなるべく主観による評価を省き、客観的に評価できるように工夫している。		
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	3	学科の科目ごとに到達目標を設定しており、定期試験や課題提出、インターン実施等で学生の達成状況を評価している。入学当初及び定期的に現在目指す将来像を書き出し、それに向けた支援を実践している。 卒業後も卒業生に対して相談の窓口を開き、再就職支援や離職防止などの対策を実施している。	1年次からキャリア教育を段階的に実施している。		

基準3 学生の受入れ、学生支援				
小項目3-1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理				SNSの活用強化について一層考慮されると良いと思う。インスタグラムに関しては高校生の利用率も高い。 学校説明会では1対1でどういうものに興味があるか、親身に聞いてもらえた。入学までLINEで期日のお知らせや、質問い答えてもらえて安心して入学することができた。
3-1-1 入学者の受入方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定していること。	3	本校では、卒業認定方針および教育課程編成・実施方針と整合した入学受入方針（アドミッション・ポリシー）を明確に定めている。募集要項やホームページ等を通じて、求める学生像や入学後の学修内容を具体的に示し、入学希望者に対して十分な情報提供を行っている。 入学選考においては、総合型選抜、推薦入試、一般入試など複数の方式を設け、志願者の学修意欲や適性を多面的に評価している。可否判定は複数名による会議体で行われ、公正性・透明性を確保している。	入学者理解を重視した面談や選考記録の活用により、入学後の学生支援につなげる体制を整えている。	
3-1-2 学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。	3	学生の受入れについては、学科ごとの入学定員および収容定員に基づき、適正な管理を行っている。	選考時期が総合型選抜・高校推薦・一般入試とそれぞれ分かれているため、早期志願者から社会人まで幅広い人材を受け入れられている。	
小項目3-2 多様な学生に対する修学支援				担任制の実施は学生にとって安心できると感じた。 クラスに留学生の方がいて、ビザの更新等でお休みするなどを聞いた。欠席が続くときに継続してフォローをしていってほしい。
3-2-1 適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生の修学に関する支援を行っていること。	2	多様な学生に対し、担任制を導入して担任が1次サポートを行い、その後必要性に応じてより専門性の高いサポート機関につなげている。少人数制の中で、個々のサポートはできている。 合理的配慮の対応もしており、事例を重ねていく中で対応の改善を重ねていっている。	少人数制の特性を踏まえ、画一的な対応ではなく、個別性を重視した修学支援を行っている点が特徴である。	
3-2-2 特に海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されていること。 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	2	留学生担当職員を配置し、在籍管理や出席状況の把握、進路(就職)指導を適切に行っている。留学生は日本人学生と同一の教育環境で学び、授業や行事を通じた交流の機会も確保されている。 少人数体制ではあるが、個々の留学生に目を配った支援を行っている。	個々に対する支援は実施できているが、日本語力に差があるため、日本語が苦手な学生に対し日本語力を向上させる取り組みが今後の課題である。	
3-2-3 学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	2	学生の経済的負担軽減を目的として、奨学金制度や学費分納制度等の経済的支援体制を整備している。学生および保護者に対し、制度内容や申請手続きについて適切に周知している。 事務局部門を中心に、担任や関係部署と連携し、個別相談にも対応している。	経済的理由による修学断念を防ぐため、相談しやすい体制を維持している。	

小項目3-3 学生生活に関する支援				3・2・1	事務局の方と生徒の距離が良い意味で近いと思う。学生をよく理解している担任と、事務局が連携して就職支援にあたってくれることは心強い。学生相談室の利用は自分の背景を知っていてももらわないと不安に感じる学生がいるかもしれない。
3-3-1 カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	3	学園グループで利用可能な学生相談室を設置し、学生に周知を行っている。自分自身でも予約ができるほか、担任を通して予約することもできる体制となっている。担任制を活かし、日常的な声かけや面談を通じて学生の変化を早期に把握している。 学業面・生活面・心理面など、多様な相談に対応できる体制が機能している。	心理的安全性を重視した学生相談体制が構築されている。		
3-3-2 留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	3	学生の状況を把握したうえで、学習上の課題に関しては授業担当の講師を含め状況を共有し、対策をとっている。 教務だけでなく、事務局のスタッフも学生状況の把握に努めている。	複数部署が関与する組織的な支援体制が構築されている。		
3-3-3 学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	3	学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、定期健康診断を確実に実施している。診断結果に基づき、必要に応じたフォローを行っている。 医療機関と連携し、学生の心身の健康保持に努めている。	医療機関と連携した健康管理体制を整備している。		
3-3-4 学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3	学生個々の就職希望をヒアリングしていきながら、担任と事務局が連携して就職支援にあたっている。学生一人ひとりの希望や適性に応じたキャリア・就職支援を行っている。求人情報や業界動向を適切に提供し、就職活動を支援している。 段階的なキャリア教育を通じ、学生の職業意識形成に寄与している。	担任制を活かしたきめ細かな就職支援が特色である。		
小項目3-4 学生の自主的な学習等の促進に対する支援				3・2・1	部活動やサークルよりも、実践的なプロジェクト活動を増やして意識を高めてもらいたい。
3-4-1 学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	3	実技系科目においては、曜日を定め補習時間を設けている。そこで進捗に課題のある学生のフォローを行っている。 休学者に関しては月に1回程度連絡をとり、状況把握につとめている。保護者とも連携しながら、本人の一番望む進路の支援を実施している。	学習習慣の定着を重視した支援を行っている。		
3-4-2 正規の授業時間以外に行われる、課外活動など学生の自主的な活動を充実させるため、適切に支援していること。	2	部活動やサークル活動は現状取り組みがないが、インターンやプロジェクト活動という形で正規の授業以外で企業課題に取り組むことを行っている。	プロジェクト活動の中ではアイドルの衣装制作などが取り組まれており、意欲の高い学生が参加できている。		

基準4 教員・教育実施組織					
小項目4-1 教員の配置、募集、採用				3・2・1	法令を遵守して運営されて良いと思った 経験のあるプロ目線からアドバイスを頂けてありがたい。
4-1-1 教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員について、採用基準等を整備し、適正に運用していること。	3	法令に基づき、必要な資格や要件を備えた教員を計画的に採用・配置している。採用基準や人事制度を整備し、公正かつ適切な運用が行われている。 教育課程を安定して実施できる教員体制が確保されている。	専門性と教育力を重視した教員配置を行っている。		
小項目4-2 教員の組織編制等				3・2・1	華やかなファッション業界に憧れを抱いて入学してきた生徒に、業界での職種ややりがいだけでなく、大変なことなど、教科書に載っていないことを教えてあげてほしい。
4-2-1 学校の目的に応じた教育を実施するために、適切な業務分担、責任体制のもとで分野の区分ごとに、教員の組織体制を整備していること。	3	教員の配置に関しては経験のある適切な人数を配置しており、教育目的を達成するために十分な人員を配置できている。 教育責任者に加え、学科ごとに担任を配置し、カリキュラム構築や授業間の連携を図っている。月に1度職員の全体会議を実施し、現状の問題点の改善について話し合っている。 担任同士のミーティングについても、隔週で実施をしている。	業界経験者を積極的に登用した体制を維持している。		
小項目4-3 教員の資質の向上				3・2・1	滋慶学園グループ全体での資質向上研修が学校運営に活かされていると思った。 職員が研修を受けていることは保護者や学生も知っておくべきだと思った。
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	3	学校単体ではなく、学園グループ全体で研修計画を策定し、対象となる経験年数や役職のスタッフが参加している。	業界と連携した実践的研修が教育の質向上に寄与している。		
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にやっていること。 【職業実践専門課程】	3	教員が専門分野における実務知識・技術・技能を継続的に修得・向上できるよう、企業や業界と連携した研修を組織的に実施している。業界の最新動向や現場で求められる技術を把握し、教育内容に反映している。 これらの研修内容は授業や実習指導に活かされ、実践的な職業教育の質向上につながっている。	業界関係者や企業と連携した研修を通じて、現場の最新動向を教育内容に取り入れている点は、本校の強みである。		
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にやっていること。 【職業実践専門課程】	3	クラスマネジメントを中心にした研修を実施している。 担任授業において、コミュニケーション力・社会人基礎力を養成するための内容に注力している。学生が安心した環境の中で授業が受けられるように、担任としての指導力向上の研修は継続的に実施していく。	研修成果を学内で共有し、組織的な指導力向上を図っている。		
基準5 教育環境					
小項目5-1 教育環境の整備点検、改善等				3・2・1	自分で何か用意する必要がなく、学校の教材を利用できるので助かっている。
5-1-1 専修学校設置基準及び関連法令に基づき、教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。(補修、更新含む)	3	法令に定められた設備を含め、一人1つのパソコンやマシンなど、学生が授業を不便なく受講できるだけの環境を整備している。 校舎営繕に関しても月に1回定期的な営繕業者とのミーティングを設け、補修等の細かな内容を漏れないように調整している。	実務を想定した設備環境を維持している点が特色である。		
小項目5-2 安全対策、防災組織				3・2・1	避難訓練は火災だけでなく、地震を想定したものも行ったほうが良いと感じる。消火器は生徒一人ひとりが使用法を知っていた方がよい。 防犯面についての対策もあったほうがよい。
5-2-1 学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	2	年に1度火災を想定した避難訓練を実施しており、職員にも役割を振り分けて適切な訓練を実施している。 また消火器の使用したことのない職員に向けては使用訓練も実施しており、緊急時には対応できる体制を整えている。	法人と学校が連動した計画管理体制を整備している。		

基準6 教育活動の基盤と情報の公表					
小項目6-1 中期事業計画と財務基盤				3・2・1	健全に運営されている。
6-1-1 当該専修学校の中期事業計画又は設置法人の中期事業計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	3	中期事業計画に関しては、5カ年を目安に今後の募集活動、教育計画を策定し、その推進に努めている。毎年計画については見直しを行い、現実とのずれがないように留意している。	会議体を活用した組織的運営が特徴である。		
6-1-2 当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。 【修学支援新制度機関要件の確認】 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	現状では中期計画上で財務状況が改善されるように募集計画を策定しており、それに沿って学科編成などを含め改善をしている途中である。募集計画を策定するにあたっては、入学希望者のニーズをより分析し、業界が求める人物像とすり合わせていくことが肝要である。その視点をより深くもち編成を進めていきたい。	法人本部と連携した財務管理体制のもと、安定した教育環境を維持し、学生の修学支援を継続的に実施できる基盤を確保している。		
小項目6-2 学校運営				3・2・1	
6-2-1 学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること。	3	職務分掌を作成し、事務部・教務部が連携して学生支援に取り組んでいる。少人数教育の利点を生かし、役割を明確化したうえでそれに硬直化しない運営を目指している。	会議体を活用した組織的運営が特徴である。		
6-2-2 学校運営に必要な知識・技能等を身に付け、意欲及び資質を向上させるためにSD(Staff Development)活動などの取組が行われていること。	3	SD活動や職階別研修、OJTを通じて、教職員の知識・技能および意欲向上に取り組んでいる。研修内容は日常業務に反映され、学校運営力の向上につながっている。東京都専修学校各種学校協会が主催している研修を始め、学校運営にかかわる研修に関しては適切な役割の職員が受講できる環境を整えている。。	階層別育成と実務運動型研修を組み合わせている。		
小項目6-3 学校評価の実質と改善活動				3・2・1	外部の意見が学校運営に活かされていると思った。 地域との関わりについては、町内会の行事に参加したり、コラボグッズを制作するのも面白いのではないかな
6-3-1 学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。【職業実践専門課程】	3	学校関係者評価委員会は年に1回・教育課程編成委員会に関しては6月・10月の年に2回実施している。その中で意見を頂いた内容に関して、カリキュラムや学校運営に反映している。	外部意見を教育課程や授業改善に活用している。		
6-3-2 学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	3	学校評価を実施し、その結果および改善状況について情報を公表している。評価結果は組織的な改善活動に活用され、PDCAサイクルが確立している。説明責任を果たす体制が整っている。	継続的な学校評価を通じた改善体制が構築されている。		
6-3-3 学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	3	本校では、学校評価の結果を踏まえた改善への取組を、組織的かつ継続的に行っている。自己点検・自己評価および外部評価の結果については、学校運営会議や関係会議体において共有し、課題の整理と改善方針の検討を行っている。改善の進捗についても定期的に確認し、次年度以降の教育活動や学校運営に反映するなど、PDCAサイクルが継続的に機能している。	学校評価を単発で終わらせることなく、改善計画の立案・実行・検証までを一連の流れとして運用している点が本校の特色である。組織的な改善活動を通じて、教育の質向上と学校運営の安定化を図っている。		

小項目6-4 社会からの理解と情報の公表				3 2 1	情報が適切に公開されていて良い。
6-4-1 当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	3	教育活動、学修成果、学校運営に関する情報を積極的に公表し、社会に対する透明性を確保している。Web等を活用した情報発信を行っている。説明責任を意識した運営が行われている。	複数媒体を活用した情報公開を行っている。		
6-4-2 教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること	2	教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会を始め、業界からの意見を聴取し、活動にいかすとりくみを継続的に行っている。地域に関して少しかわりが薄い部分があるので、町内会含めより積極的にかかわりを持っていきたい。	産学連携を基盤とした教育改善を継続している。		